



響

ひびき
Vol.6

楽しいって、
なんだい？

Hibiki vol.6 「楽しいって、なんだい？」

✎ “授業から学ぶ”

- ・ 言葉を身近に感じ、楽しく学ぶための工夫

✎ “研修会の窓”

- ・ 初任者研修 教師力向上研修Ⅲ
- ・ 話すこと（発表）における目標の実現を目指して

✎ “考える部屋”

- ・ 「対話的な学び」を実現させるために

✎ “SSWの笑門来福”

- ・ 繋がり・繋げる・繋がっていく

✎ “生涯学習課より”

- ・ 東信地区スポーツ指導者連携会議

できることでも、
できないことでも、
わかることでも、
わからないことでも、

そのとき、
わたしは満ちている。



授業から学ぶ

1年・国語
MIMを用いた指導



言葉を身近に感じ、楽しく学ぶための工夫 ～「多層指導モデルMIM」を活用して～

低学年の国語の授業で特殊音節を指導する際、「多層指導モデルMIM（ミム）」の指導法を取り入れる学校が増えてきています。



先生

小さい「ヤユヨ」のどれが入るか、楽しく考えながら学べるように。

フルーツバスケットを応用した「小さなヤユヨバスケット」を中心活動にする



＜楽しく考えながら活動するAさん＞

Aさんに配られたのは「ヨ」のカードでした。椅子に座ったAさんは、首から下げたカードを笑顔で隣の友達に見せ、「私は『ヨ』だよ」と言いました。

鬼役の友達がカタカナ言葉カードを引きました。その友達が、「パジャマ」と読み上げると、Aさんは自分のカードに目をやり、「私ちがう」と言って首を振りました。その後、隣の友達のカードに目を向けました。Aさんは、隣の友達が首から下げていた「ユ」のカードを指さしながら、「これもちがうね」と伝えました。

「ショベルカー」のカードが引かれると、Aさんは自分のカードを指さして、隣の友達に見せました。自分の「ヨ」が入っている言葉だと分かったのでしょうか。みんなで動作をつけながら読んだ後、移動の合図が出されると、Aさんは空いている席を見つけて急いで移りました。



先生

言葉を身近に感じながら、興味をもって学習に取り組めるように。

子供たちが作成してきたカタカナ言葉のイラストカードを使用する



＜友達が作ったカードに親しんで活動するAさん＞

鬼役になったAさんが引いたカードは「チャーシュー」でした。Aさんは、拗長音が2つも入った難語句に少し戸惑いつつも、照れ笑いしながら大きな声で「チャーシュー」と正しい発音で読み上げました。それが届いたみんなからは、「誰が描いたやつかな」「〇〇さんだよ」「2つ入ってるよ」という声が上がりました。その後、みんなで動作をつけながら読み、合図と同時に友達が走り出しました。Bさんは満足そうな笑顔を浮かべ、空いている席を見つけて座りました。



この事例では、子供たちの実態を基にして、片仮名言語を身近に感じながら、楽しく活動することを通して、拗音を習得できるように活動が工夫されています。MIMの指導法や教材を参考にしつつ、実態を基に子供たちが楽しく学んでいく姿を重ね合わせて、活動を工夫していきましょう。



研修の窓

初任者研修 教師力向上研修Ⅲ ～仲間と立ち止まり、明日からの一歩へ～

自己課題に基づき、解決に向けた実践を語り合いました。自分の実践を、具体物を基に身振り手振りで語る姿、子供たちの姿を語る姿から、目の前の子供たちのためにという熱を感じました。

自己課題解決に向けて、自身の実践を語り合い振り返る



子供たちのために取り組んできた日々を熱く語る姿からは、教師としての実践意欲や子供と共に学ぶ喜びを感じました。

また仲間からの「そのような子供の姿につながった一番の要因は何だろう」という問いから、具体的な手立てを考えることで、今後の実践への見通しをもつ姿も見られました。

【初任者の声】

- 私が自己課題としていることは、自分の考えをもち、同時に他の人の考えも尊重してほしい、子供たちの疑問や考えを中心に自分たちで作り上げてほしいことであると改めて気付いた。
- 悩みを話し、具体的な案をいただき、見通しがもてました。
- 苦しいことも多かったですが、仲間と実践や子供の様子を話したりしていると、もっと学んでいきたいと思い、明日教室に行くのが楽しみになりました。

子供の困難やつまずきを理解し、具体的な支援へ

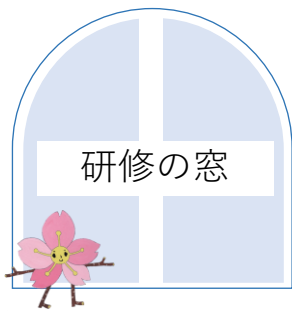


特別支援教育の視点で、子供が困っている状況を体験を通して感じることで、「子供の背景」や「困っているのは子供」ということに気付いていたのかを振り返りました。また、クラスにいる子供を思い浮かべ、明日からできる具体的な支援を仲間と考えました。

【初任者の声】

- なぜできないのか。今まで私は分からなかったし、分かろうとしなかった。
- まずは、背景にあることを理解することから始めていきたい。
- あの子は字を書くことに困難さを感じながら頑張っていると考えてようになった。
- 自分の対応の仕方を振り返るためにも、日々記録をつけていきたい。

自身の実践を語り、仲間から問いかけられることで、振り返ったり、意味づけたり、具体的な見通しをもったりすることは、初任者に限らず大切なことですね。これからも、目の前にいる子供のために学び、具体的な取組を考え、実践していく教師としての姿勢を大切にしたいですね。



話すこと（発表）における目標の実現を目指して ～信州英語教育ルネサンス事業モデル校実践発表から～

第2回中学校外国語テスト改善研修会の中で各地区の信州英語教育ルネサンス事業中学校モデル校の実践発表が行われました。東信地区からは、塩田中学校の赤尾敬太先生が、ご自身の実践を発表されました。

「話すこと（発表）」において変容してきた生徒たち

「ALTの好みに合った弁当を発表しよう」（5月）



見てきたクラス全体の課題

- ・ 原稿に視線を落としたまま
- ・ 翻訳アプリで直訳されたままの英語
- ・ 弁当の中身を紹介するだけで、魅力やおすすめするポイントなどが無い

「尊敬する人物の魅力を友に紹介しよう」（10月）



生徒たちの変容

- ・ 聞き手に視線を向け、巻き込む発表
- ・ 友に伝わるような表現や語句の使用
- ・ 具体的なエピソードを交えて自分しか話せないことを発表



この背景にある二つの手だて

① 単元構想と評価ルーブリックを事前に提示し、生徒が活動の見通しをもてるようにする。

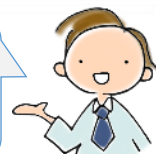
単元構想【Our Project】		【評価ルーブリック】		
【活動内容】1人で全員の前で発表		A	B	C
準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紹介したい人物の情報を集める ○ ロイロノートで簡単なメモを作成する 	・間違いのない、正しい英文で話すことができています	・コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができています	・コミュニケーションに支障をきたさず英語になってしまっている
練習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の発表の動画を見て、英語をシンプルにする ○ 何度も練習をし、発表内容を改善していく 	・その人物を知らない人でもどんな人物なのか理解することができ、その人物への思いも具体的にまとまりのある英語で表現できている	・その人物を知らない人でもどんな人物なのか理解することができ、その人物への思いも表現できている	・人物紹介と自分の思いが不十分で、その人物の魅力が伝わらない表現になってしまっている
表出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表をする ○ 発表の様子やこれまでの課題を振り返る 	・その人物を知らない人でもどんな人物なのか理解することができ、その人物への思いも具体的にまとまりのある英語で表現しようとしている	・その人物を知らない人でもどんな人物なのか理解することができ、その人物への思いも表現しようとしている	・人物紹介と自分の思いが不十分で、その人物の魅力が伝えようとしていない

② 中間指導の時間を設定し、相手に伝わる英語や構成、話し方であるかを、客観的に振り返られるようにする。

< 参会された先生方から >

- ・ 単元末の生徒の姿や振り返りから課題を洗い出して次の単元の目標設定や指導につなげることが、生徒の力を伸ばしていくことにつながるということを改めて実感しました。
- ・ 生徒が単元の目標に向かって、見通しをもって一時間一時間の学習を積み上げていくことができるので、単元構想や評価ルーブリックを共有することは大切だと思いました。
- ・ 中間指導の大切さを改めて感じました。まずはやってみて、そこから生徒が学んでいくことを大切にしたいと思います。

自分の姿を客観的に捉え、それを相手意識をもって捉え直すこと、生徒が単元のゴールまでの見通しをもつことによって、英語によるコミュニケーションの楽しさを感じ始めてきていました。「英語は楽しい」につながる姿ではないでしょうか。



考える 部屋

「対話的な学び」を実現させるために

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通して、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」は実現できているか。この視点から、多くの授業で取り入れられているペアやグループの話し合いの活動に焦点を当てて考えてみましょう。

授業でペアやグループでの話し合いの活動を取り入れているけれど、**一方的に自分の考えを発表するだけで終わってしまうんだよなあ。**



子供たちは話し合っているのだけれど、話し合いによって、その子の考えが**本当に深まっているのかなあ**と感じることも多いです。

振り返ってみよう！

① 他者と対話する必然性のあるテーマが設定されている

② 自分の考えを創り上げる時間が十分に確保されている

③ 多様な考えに触れられるようなメンバー構成や人数になっている

④ 対話で扱う情報の質と量は適切だ

⑤ 互いの思考を可視化・操作化する工夫がされている

【令和4年度 長野県教育委員会 青本P7より作成】

いくつぐらいチェックが入ったでしょうか？

- ①：学習問題や学習課題にもかかわりますね。
- ②：まず一人ひとりがしっかり考えをもてるようにしてから、ペアやグループ活動に入るとよいですね。
- ③：違う考えの子がグループにいと、話し合いが活性化しますね。人数が多すぎると、話し合いに参加しづらい子も出てきますね。
- ④：情報が多すぎたり難しすぎたりすると、一人ひとりが情報を読み取ることに精一杯になってしまい、十分に対話できなくなることも出てきそうですね。
- ⑤：ICTや思考ツールが有効に働きそうですね。

「対話的な学び」を実現させるために、上記のような視点を参考に、話し合いの活動を見直してみましょう！



SSWの 笑門来福

みんなの笑顔のために



繋がり・繋げる・繋がっていく ～SSWの仕事、つなげるって？～

SSWが関わるようになって、その後どうなったの？ SSWがよく言っている「つなげる」ってどういうこと？ 今回は、ひとつの事例を通してそんな疑問にお答えしたいと思います。

家庭と SSWが 繋がる

Aさんは学校生活の中でコミュニケーションがうまくいかないことが多く、「自分は学校では透明人間だ」と感じていました。コロナ禍になり休校になったことで孤独感は一層募りました。

誰からも連絡が来ない、誰にも会わない生活は心を蝕み、休校明けに学校に行く気力はなくなっていました。死にたいと思うようになり、決行日を決め睡眠薬とロープを買い何日も部屋にひきこもりました。

心配した母親が担任の先生に相談し、SSWと家庭が繋がりました。

SSWが 繋りを 広げる

SSWは家庭訪問を繰り返し、Aさんの思いを聞きました。帰るときには必ず「次に会うときまでは死なない」という約束をしました。

Aさんは家から出られなかったため、SSWは家庭訪問を続けながら大人とAさんを繋げることにしました。SSWと一緒に家庭訪問し直接Aさんと話をする大人、Aさんが家から出たときに手伝ってくれるたくさんの大人の存在もAさんに伝え、いろいろな形の繋がりをAさんと作っていきました。

半年後、医療へ繋がりAさんは入院になりました。退院後もSSWと一緒にいろいろな大人と繋がっていくなかで、Aさんは本来の明るさを取り戻し、前向きにこれからを考えられるようになりました。

繋がりが 次へ 繋がる

現在Aさんは進学し、友人もできました。忙しいながらも充実した生活を送っています。Aさんが進学後、Aさんの母からSSWに連絡がありました。「知人のお子さんが死にたいと言っているようで心配。私たちも、しんどい時にSSWや学校に助けてもらったから、頼ってもよい先、繋がってくれる先を教えてあげたい」という電話でした。

Aさんやお母さんが周りへと繋がってくれたこと、「繋がった」経験を別の方へ繋げてくれたこと、とても嬉しい出来事でした。人と繋がり手を貸した経験は、心のなかで大切な種となり、いろいろな場所で芽吹いていきます。

現場の先生方から「家庭のことは学校は入れない・立ち入れない」という言葉を聞きますが、子供の一番近くにいる大人である先生方が、キャッチしてくださった違和感や変化をSSWに繋げていただくことで、色々な大人が関わることができ、状況が変わる場合があります。

児童生徒のことで「家庭の状況が心配」「困っている」「なんだかうまくいかない」時はSSWに繋げてみませんか。何かお手伝いができると思います。子どもが生きる世界が温かい柔らかな世界になっていくと良いですね。



東信地区スポーツ指導者連携会議

10月28日（金）に東信教育事務所講堂で開催しました

生涯学習課
スポーツ振興

全体会は講演会、分散会ではグループごとに意見交換が行われ、障がい者スポーツ環境づくりについて考えました。

講演 パラリンピックから学んだこと
～「多様性と調和」オリパラ&スポーツからの発信～
講師 渡辺 孝次氏
(日本パラリンピック委員会ハイパフォーマンスディレクター)



多様性と調和

人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩する。

日本と世界の「ものさし」の違い

<国内パラスキー大会への参加>
【日本】「助力を得てはNO…」
【世界】「スキー履いてるんだね。ならOK！」
<オリンピック・パラリンピックのメダル>
【東京2020】デザインが別であった
【世界】近年、同じデザインになってきている

パラリンピックの精神

「失われたものを数えるな。今あるものを最大限に生かせ」



講師の渡辺孝次氏



スポーツのできること スポーツだからできること

今ある状況で、誰もが楽しめるようにルールを工夫することができる。
これが「**スポーツはすべての人のもの**」
につながる

障がい者スポーツの意義 = スポーツの意義

意見交換会の様子

障害についての理解や対応に、不安をもっている指導員もいてなかなか難しいです。



私の部には、発達障害がある生徒がいます。時間がかかりましたが、一緒に活動してきたため、今は生徒同士で助け合っています。



障がい者スポーツ事業へ、障害をもつ方が参加していただけない現状もあります。



障害の有無にかかわらず、一緒にかかわれる機会があるといいですね。



うちでは、シットイングバレーやブラインドサッカーをイベント的に行っています。今後はパラスポーツの普及だけでなく、障がい者のためのスポーツ推進したいと考えてます。

障がいに対する日本の考え方が外国と違うという実態を知り、自分の所属における「スポーツだからこそできること」について共に考え合いました。また、スポーツを通して「その子ができることやその子の良さを生かすこと」を考えることは、教育と同じであることを再認識しました。

学校職員、行政担当者、地域指導者で話し合うことで、スポーツの見方・考え方を受け入れて、共生社会づくりに向けて様々な立場の方と連携する大切さを感じました。

